

京城日報

刊夕日七十
發行所 京城日報社
電話 三三三三
代印所 京城日報社
電話 三三三三

奉天段將軍孤立的姿

第二十七師駐防出征、形勢孤立的姿、奉天段將軍、
部下一族の鎮防出征、形勢孤立的姿、奉天段將軍、
部下一族の鎮防出征、形勢孤立的姿、奉天段將軍、

袁總統留任の條件

袁總統留任の條件、袁總統留任の條件、
袁總統留任の條件、袁總統留任の條件、
袁總統留任の條件、袁總統留任の條件、

四川獨立せん

四川獨立せん、四川獨立せん、
四川獨立せん、四川獨立せん、
四川獨立せん、四川獨立せん、

支那警備艦命令一下を待つ

支那警備艦命令一下を待つ、支那警備艦命令一下を待つ、
支那警備艦命令一下を待つ、支那警備艦命令一下を待つ、
支那警備艦命令一下を待つ、支那警備艦命令一下を待つ、

陸公使の告別

陸公使の告別、陸公使の告別、
陸公使の告別、陸公使の告別、
陸公使の告別、陸公使の告別、

支那全土の治安

支那全土の治安、支那全土の治安、
支那全土の治安、支那全土の治安、
支那全土の治安、支那全土の治安、

巴奈馬運河の開通

巴奈馬運河の開通、巴奈馬運河の開通、
巴奈馬運河の開通、巴奈馬運河の開通、
巴奈馬運河の開通、巴奈馬運河の開通、

北部獨軍の大規模準備

北部獨軍の大規模準備、北部獨軍の大規模準備、
北部獨軍の大規模準備、北部獨軍の大規模準備、
北部獨軍の大規模準備、北部獨軍の大規模準備、

英國鐵材禁輸

英國鐵材禁輸、英國鐵材禁輸、
英國鐵材禁輸、英國鐵材禁輸、
英國鐵材禁輸、英國鐵材禁輸、

九師團出發期

九師團出發期、九師團出發期、
九師團出發期、九師團出發期、
九師團出發期、九師團出發期、

尾崎法相歸東

尾崎法相歸東、尾崎法相歸東、
尾崎法相歸東、尾崎法相歸東、
尾崎法相歸東、尾崎法相歸東、

赤十字社總會

赤十字社總會、赤十字社總會、
赤十字社總會、赤十字社總會、
赤十字社總會、赤十字社總會、

古海總長被宴

古海總長被宴、古海總長被宴、
古海總長被宴、古海總長被宴、
古海總長被宴、古海總長被宴、

七十八聯隊著

七十八聯隊著、七十八聯隊著、
七十八聯隊著、七十八聯隊著、
七十八聯隊著、七十八聯隊著、

朝鮮航路盛況

朝鮮航路盛況、朝鮮航路盛況、
朝鮮航路盛況、朝鮮航路盛況、
朝鮮航路盛況、朝鮮航路盛況、

津清

津清、津清、
津清、津清、
津清、津清、

興成

興成、興成、
興成、興成、
興成、興成、

川仁

川仁、川仁、
川仁、川仁、
川仁、川仁、

山元

山元、山元、
山元、山元、
山元、山元、

山群

山群、山群、
山群、山群、
山群、山群、

鳥致院

鳥致院、鳥致院、
鳥致院、鳥致院、
鳥致院、鳥致院、

安東

安東、安東、
安東、安東、
安東、安東、

和松

和松、和松、
和松、和松、
和松、和松、

島根縣佐々木四郎に告

島根縣佐々木四郎に告、島根縣佐々木四郎に告、
島根縣佐々木四郎に告、島根縣佐々木四郎に告、
島根縣佐々木四郎に告、島根縣佐々木四郎に告、

宮木又七

宮木又七、宮木又七、
宮木又七、宮木又七、
宮木又七、宮木又七、

力勞

力勞、力勞、
力勞、力勞、
力勞、力勞、

製材機械原動機

製材機械原動機、製材機械原動機、
製材機械原動機、製材機械原動機、
製材機械原動機、製材機械原動機、

鑛山機械専門製作

鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、
鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、
鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、

中根商會

中根商會、中根商會、
中根商會、中根商會、
中根商會、中根商會、

大邱軍械城安東間

大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、
大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、
大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、

定期乘合郵便馬車

定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、
定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、
定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、

寫真

寫真、寫真、
寫真、寫真、
寫真、寫真、

宮木又七

宮木又七、宮木又七、
宮木又七、宮木又七、
宮木又七、宮木又七、

力勞

力勞、力勞、
力勞、力勞、
力勞、力勞、

製材機械原動機

製材機械原動機、製材機械原動機、
製材機械原動機、製材機械原動機、
製材機械原動機、製材機械原動機、

鑛山機械専門製作

鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、
鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、
鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、

中根商會

中根商會、中根商會、
中根商會、中根商會、
中根商會、中根商會、

大邱軍械城安東間

大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、
大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、
大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、

定期乘合郵便馬車

定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、
定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、
定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、

寫真

寫真、寫真、
寫真、寫真、
寫真、寫真、

宮木又七

宮木又七、宮木又七、
宮木又七、宮木又七、
宮木又七、宮木又七、

力勞

力勞、力勞、
力勞、力勞、
力勞、力勞、

製材機械原動機

製材機械原動機、製材機械原動機、
製材機械原動機、製材機械原動機、
製材機械原動機、製材機械原動機、

鑛山機械専門製作

鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、
鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、
鑛山機械専門製作、鑛山機械専門製作、

中根商會

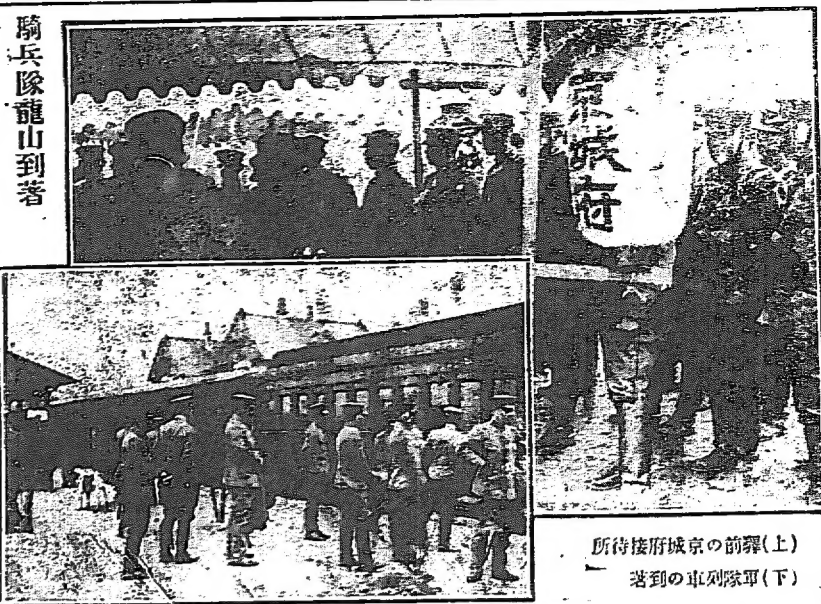
中根商會、中根商會、
中根商會、中根商會、
中根商會、中根商會、

大邱軍械城安東間

大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、
大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、
大邱軍械城安東間、大邱軍械城安東間、

定期乘合郵便馬車

定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、
定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、
定期乘合郵便馬車、定期乘合郵便馬車、



所待接府城京の前驛(上)
著到の車列隊軍(下)

騎兵隊到着

盛なる龍山停車場の歡迎

長途の旅に疲れ果てた騎兵隊は、龍山停車場に到着した。彼等は、龍山停車場の歡迎隊に、熱烈の歡迎を受けた。彼等は、龍山停車場の歡迎隊に、熱烈の歡迎を受けた。彼等は、龍山停車場の歡迎隊に、熱烈の歡迎を受けた。

朝鮮松

希らしい大森林

朝鮮松は、希らしい大森林である。朝鮮松は、希らしい大森林である。朝鮮松は、希らしい大森林である。

山公病状

其後變り無し

山公の病状は、其後變り無しである。山公の病状は、其後變り無しである。山公の病状は、其後變り無しである。

神木焼く

日光山の火事

日光山の火事は、神木を焼く。日光山の火事は、神木を焼く。日光山の火事は、神木を焼く。

懸賞付の犯人

一萬五千圓の懸賞

懸賞付の犯人は、一萬五千圓の懸賞がある。懸賞付の犯人は、一萬五千圓の懸賞がある。懸賞付の犯人は、一萬五千圓の懸賞がある。

厄介な狸々女

京成線安房郡

厄介な狸々女は、京成線安房郡に現れた。厄介な狸々女は、京成線安房郡に現れた。厄介な狸々女は、京成線安房郡に現れた。

漢江に溺屍體

十四日午後

漢江に溺屍體は、十四日午後に見つかった。漢江に溺屍體は、十四日午後に見つかった。漢江に溺屍體は、十四日午後に見つかった。

大分縣視察團

十七日朝入京

大分縣視察團は、十七日朝入京した。大分縣視察團は、十七日朝入京した。大分縣視察團は、十七日朝入京した。

鐵條網を越えて

京成線安房郡

鐵條網を越えては、京成線安房郡に現れた。鐵條網を越えては、京成線安房郡に現れた。鐵條網を越えては、京成線安房郡に現れた。

市內春今大掃除

京成線安房郡

市內春今大掃除は、京成線安房郡で行われた。市內春今大掃除は、京成線安房郡で行われた。市內春今大掃除は、京成線安房郡で行われた。

訓練院の野球戦

十六日午後

訓練院の野球戦は、十六日午後に行われた。訓練院の野球戦は、十六日午後に行われた。訓練院の野球戦は、十六日午後に行われた。

歡迎會申込延期

十八日午後

歡迎會申込延期は、十八日午後に行われた。歡迎會申込延期は、十八日午後に行われた。歡迎會申込延期は、十八日午後に行われた。

義足の手附金

京成線安房郡

義足の手附金は、京成線安房郡に現れた。義足の手附金は、京成線安房郡に現れた。義足の手附金は、京成線安房郡に現れた。

再三宮内省御買上の光榮を辱ふべし

東 京 一 番 美 人 人 液

木 一 液

本 館 堀 越 太 郎 商 店

現 代 中 心 ば な

Corona

洋傘陳列會

京城辻屋

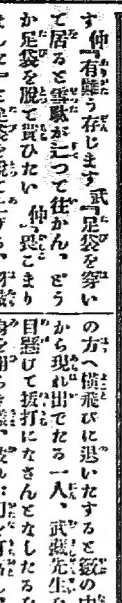
御大典記念飲料

三平野水

帝國鏡泉株式會社

第十一回

宮本武蔵は黒羽二重の羽織に黒羽二重の衣類を着て仙臺半の袴を穿きブラ／＼参りましたが、血が知らずか武コレ／＼仲間其方は捕者を送り込んで神木橋の捕者が宅へ溜つて行くが宜い。仰／＼お送り申して直ぐに歸朝し不破袴へ送り届けた様子を申上げなければなりません。武左様であるか春空さういふものは大層なものである。屋敷へ戻したら奥女を遣はして突當らうとするのを諷を成したから行過ぎる途端に刀の鞘がカチリつた。お待ちなさい何故鞘音をしたのか。お待ちなさい何故鞘音をしたのか。武左様は隙間をいたしてをいたした。捕者は隙間をいたして居るから我に御容赦を願ふ。謝罪ならば冠り物を脱て謝罪なさい冠り物を取らずに謝罪なさい。法はございぬまい。と云ひながら屋敷へて突當らうとするから武蔵先牛頭の手を掛けやうとする。



まじか、と我を服で上ける。小瓶をズム上に巻上げて、腰の所に挟み、提灯は邪魔になつて、反つて可かん、其方は後から来い、と提灯持を後にして小瓶をうたひながら、行人坂へ懸つて来る。道輔疾くつて障子に藪になつて居る、坂はだら／＼長い坂でございます、其坂の中央まで来るとペラ／＼と上から駆て来た者が、武蔵先生にドシんと突當らうとするのを避けたら、倒りながら向うへを馳した。武、仲頼氣を注げな、仲／＼私しも油斷致しません、貴方様もどうぞお氣をお付け遊ばして、と、いふ内に又ペラ／＼と上から一人來る。小瓶の柄に手が懸つたかと思ふ間、彼らが首をバツサリ打落した。と、徳達と倒れる所へ又一、人飛懸つて来るから一刀の元に足も又斬り倒し、惡を目前に見て居た佐吉、木劍、道輔、柳、一力を振抜き、群やア宮本、平佐吉の仇覺悟いたせ、と斬込ん来る奴を物を、も言はず坂で丁々斬ひに相成る、此時に宮本の方は二、子に相成る、充分勝算になつて居る、岸柳の方は頼みに思ふ人のめづ子斬られて居るからモウ負氣につて居る、切り込み、前へ進み、る。劍道館、岸左の方の親指を一本、

[illegible]

て岸柳今度は坂下へ逃げ行く。岸柳待て、御道待て、密偵であらう」と鈴を懸けて追懸けましたが岸柳は、
「居ても居るゑ、再び小成りをして計て歸つて来る奴を宮本に於ては左の脇腹を取て岸柳の面を望んで付けた岸柳腹を後に引いたから小手が教んだ其に付入る宮本は一刀を袖に挟たからキヤツといつて岸柳は脇腹へ斬込まれ遂に其へ倒れる。武藏は投げたる脇差を拵つてハッとい息をついて先づ岸柳の首を其へ倒落して、扱て屍骸をどういたさうかと考へて居る所へ、仲藏が居敷へ取つて歸し其事を不破作左衛門に告げましたから其へ依つて森大内記の屋敷より不破名古屋高木の人を初め、数として助太刀をいたさんと十四五名乗込んで来ると有の始末、武藏は早くも疑ひから其の様子を見たから面倒と思ひ其儘にして此處を立去りましたが、神田櫓の屋敷へは歸らずに、輪の吉野屋徳兵衛といふ者の所へ出てになりまして、是は元小笠原の御家、此處先生の父さん伊織殿の御家の弟子でございます、其所へ来て暫らくの間休息をいたし、是より肥後の熊本へ乗込んで岸柳の門第三十人も有るといふから、彼れが道場へ参つて尊富の勝負を致さんと徳兵衛の方で文度を開く、是より東海道を登つて参るといふお話し

[illegible]

<p>●月やく</p> <p>とどこほり又は不順にてお困の方 は神戸市布引町十一丁目小松 屋へ切手封入手紙下さい其の通経妙 薬あり人助けの為御知らせ致します</p>	 <p>わきの下のくろみさ</p>	<p>●わきが</p> <p>今が治癒の時だ先生が多くの患者を 救済し喜ばれた。先生の手で治癒した 方の中で一番能く効くことを證明せら れた腋臭水に腋臭の病源である汗腺皮 膚膜に作用してわきがが消滅する功 能を得られて居ります。現在今は中 中で過激な汗の出るのも少なく、他</p>	<p>胃腸新薬 マーゲン</p> <p>治療するには一番よい時ですア フタ一時間今の薬を速いと思ふか 少ししてもおきこの時の病弱といふ 方は今すぐにかきで東京芝罘青森 長官邸へ御用になさいわきがが治癒 するかわしめ説明書を宛先に封 じて送られます</p>	<p>かぜねっ最良藥</p> <p>三大大特長 二病黄痰の配佐 二極端に効力 三市中に希見し</p> <p>思ひかけ、風邪、 流行性感冒、 幼少こころ風咳痛、 喉痛、頭痛、 傷寒、熱症、 十歳十五歳廿五歳 迄年齢別五十銭一 本銀大瓶丹平兩百 買物は全国各商店</p>	 <p>アピチン丸</p>
---	--	---	--	--	---

シズミにホシ
各地支店にあり
千客万来 ヒステリー
定価十銭 瓶五銭 六十銭

旦那様の御満足は奥様のお悦び
旦那様の御満足は奥様の悦び
品質の一定不壊……混合物の絶品
香味の芳烈無比……価格の低廉
此四ツ揃つたのが家庭必備の良消氷の饗に候

光日 喜利 喜利 喜利
店商 店商 店商 店商
米 米 米 米
壽 壽 壽 壽

●東●西●兩●市●場●に●於●け●通●信●界●の●霸●王●

本通信の確實、迅速なるは既に定評あり、東西株式、期米、兩市場の目付を以て任じ、常に會員諸氏の爲に活動しつゝあり、株式期米界に往來の人士は本通信を利用して初めて完全に有終の美を齎すを得ん

△會費

書翰通信一ヶ月五圓 電報通信普通拾五圓 特別廿圓 其他
信託買賣の便利法あり 詳細なる規定は請求次第送呈す

大阪市東區北濱一丁目取引所隣

(明治三十三年) 立

電話 本局長七六七番
振替大阪一九六九八番

相場觀測會

花に勝る美しさは

レイト白粉の化粧

■春の眺めは櫻に榮え美人の姿はレイト白粉の化粧に輝く

春遊

の化粧料としては誠にレイト白粉に限ります 最も色艶を華やかに人々に
突に採れても少しも化粧直しの心配がなく常に活々とした化粧美をば

最上醬油
朝高杉
仁川
川口
澤場

食料品

地方の御得意様方には
振替京城一番に
御拂込被下は料金不要

川西店御部
小賣部

電話一三六七番
振替千二百番

化粧料水
平尾哲平

化粧姿
しやうすがた

[illegible]

野、一時の
處とて

に於て、大運路が開かれた、本多重次は先づ小牧山機分の次第を述べ、「常城は故有大臣御登祥の地、尾張一國を制するには、誠に要害の處とぞござりませうが、此に居て天下の大敵を待たんことは、策の得ないものとば存せられませぬ。其に引替へ小牧山の地形は、分内さまで廣からねども、平野の間に高く姿でゝ、四望十里が望は、目を遮る處でもな

● 成金方面 引掛き二面の奥裏に上りつて益多多方面の興廢ある事記す。其間、關原の戦ひも、西郷隆盛の起つても、明治天皇の御即位も、明治二十三年の年終をこけて昭和四年の金慶を遂行し、今時神功格符の紙幣を發行せらるゝと

美田新洋母 氏 京市南區長崎町三丁目

○ 西洲村松舟山
○ 洲府舟舟山

[illegible]

續次ぐ夜をハキ炭をかこつて妻
園作る母なりしが悲し積り炭粉
同健

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
影を追ふ眼の疲れ限道・
院の機念に湖は碧りして
の河幅に糸たるのみなり

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
山より鐘を響くげに蹄馬
原上をゆく

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
瓶の松樹や炭の佳き香
盆の軒深をぞ鳴かす居り
貨物の連結を待つ冬木際
脱くの足掻ね難きなり

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
母より以劍略す丘の教會堂
父より以劍略す丘の教會堂

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
城山より浮城山より
原上をゆく

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
仰しやらち最少し切初に歎へて
いませ重て御尋申上にて叱られ
まいかと慮して居ります（病児
母）▲近時京坂に文藝趣味の盛に
つたのは非常に親類すべき事であ
其處で和歌・漢詩・俳句の新意何派
問はれ連合一大會合を催しては知
ず若輩散て進んで大馬の旁を採
ん贊成者はなきや（南山太郎）

を、三條引の宜しきを陽刺へ
な、始め諸大家の印章をも加へ、見字

[illegible]

望不安、悲

徳行爲の應報生
望不安、悲し可なり
き運命の手に歸せし
現在に於たれん生人
若て地を渡り得ず溺
るるを待たずして速
に己の將來を慮る
大いに奮起し己の
運命に勝つて大いに
上りて申す

二箇年で卒業が出来るか

二箇年にて卒業。出家。か。是。方。に。な。れ。ば。し。事。を。御。願。致。し。し。貴。君。の。居。所。御。記。山。に。及。び。一。丁。目。ま。じ。う。屋。焼。突。掃。除。が。一。日。も。速。に。掃。除。に。欲。い。一。箇。婦。子。御。願。致。し。兒。科。年。と。思。ふ。婦。子。上。た。事。は。不。少。し。分。易。又。御。願。致。し。先。て。半。語。

▲近時京城に文藝趣味の

かど遠慮して居ります（病児の）
 ▲近時京城に文壇趣味の盛にや
 るのは非常に祝福すべき事であら
 うで和歌・漢詩・俳句の新舊何派
 へはす連合一大會合を催しては如何
 吾輩敢て進んで大馬の勞を採
 る成者はなきや（南山太郎）


四月二十日より
同二十六日まで

〇ホトンド半額
 〇の見切品澤山
 ・見切品と云へば昔さん知
 知の通昨年の品です其の上
 大見切の専とて殆んど本半
 半額で求められます
 ・賣出し中は此の半額にて正
 品を山ほど出します
 ・新着品は此際元價同様
 段にて賣出し致します
 京城市本町一丁目
 電 話 四 八 三

いと望んでも夫婦の身に

幾分結つても如斯うな道徳はありません。倅には男子に子孫がないと
 ありますが、それは極々稀で十中八九までは婦人の生殖器疾患、即
 病、血の道、ヒステリ等から怖るべき不妊症に陥るのです。
子宮病血の道の症状 はと申せば先づ月經不順
 腹痛、眩暈、逆上、手足
 冷え、耳鳴、肩の凝り、白帶下、下腹の引痛るやうな疼み等いろいろ
 来しますが、此中直接不妊の大原因となるのは白帶下です。何故か

すが實に危險なる語です。そして此の
 間、幾年経つても子貢を得られぬば



(八)

之を抛つておくといふより重態に陥つて遂には一命に關するやうな事があひます。

▲治病妊娠の實例

るべき子宮病を治癒して妊娠の目的を遂せられるるかと思へば、それは有名な婦人科門大醫方の書かれた「婦人病者の心得」一

そんなら如何して此病

後の養生法まで詳しく囁く
うに説いてありますから、

（三）

（五）

に治癒する事が出来たり。現に此の
 眞の方々なども多年婦人病に悩ま
 れ子供が出来ぬ爲に悲願して居ら
 たのが本書によつて治療法を知
 し病氣の快治と共に此の憂ら
 い子責を免げられたのです。又
 人病者の心得「御入用の方は
 ガサにて申込まれよ何人ハ
 も無代で送呈致します



目丁四附榮新區橋京京東

命の母本舗 笹岡三省薬房

今年の
ハヤリを
御覽下さい

セル

甜カスリ

帯地

金々浮山
まいつて
居ります

京
丸一
吳服店

大阪商船出帆

日本郵船出帆

自動車時間表

金織居自動車支部

大阪商船出帆

日本郵船出帆

電話五十九番 山村回遊館

[illegible]

大池國書

朝鮮郵船

本外埠
 大正二年五月廿二日
 大正二年五月廿六日
 大正二年五月廿九日
 大正二年六月二日
 大正二年六月五日
 大正二年六月八日
 大正二年六月十一日
 大正二年六月十四日
 大正二年六月十七日
 大正二年六月二十日
 大正二年六月廿三日
 大正二年六月廿六日
 大正二年六月廿九日
 大正二年七月二日
 大正二年七月五日
 大正二年七月八日
 大正二年七月十一日
 大正二年七月十四日
 大正二年七月十七日
 大正二年七月二十日
 大正二年七月廿三日
 大正二年七月廿六日
 大正二年七月廿九日
 大正二年八月二日
 大正二年八月五日
 大正二年八月八日
 大正二年八月十一日
 大正二年八月十四日
 大正二年八月十七日
 大正二年八月二十日
 大正二年八月廿三日
 大正二年八月廿六日
 大正二年八月廿九日
 大正二年九月二日
 大正二年九月五日
 大正二年九月八日
 大正二年九月十一日
 大正二年九月十四日
 大正二年九月十七日
 大正二年九月二十日
 大正二年九月廿三日
 大正二年九月廿六日
 大正二年九月廿九日
 大正二年十月二日
 大正二年十月五日
 大正二年十月八日
 大正二年十月十一日
 大正二年十月十四日
 大正二年十月十七日
 大正二年十月二十日
 大正二年十月廿三日
 大正二年十月廿六日
 大正二年十月廿九日
 大正二年十一月二日
 大正二年十一月五日
 大正二年十一月八日
 大正二年十一月十一日
 大正二年十一月十四日
 大正二年十一月十七日
 大正二年十一月二十日
 大正二年十一月廿三日
 大正二年十一月廿六日
 大正二年十一月廿九日
 大正二年十二月二日
 大正二年十二月五日
 大正二年十二月八日
 大正二年十二月十一日
 大正二年十二月十四日
 大正二年十二月十七日
 大正二年十二月二十日
 大正二年十二月廿三日
 大正二年十二月廿六日
 大正二年十二月廿九日

平壤丸 四月廿一日 元山發

[illegible]

江原丸 四月廿八日 仁川發

[illegible]

三
月 日出 帆
(元山出帆)
上

第三
(元山出帆)
阿波國共同汽船株式會社
本丁員電話(〇八二七)
仁前市電報(山下) 函 濱 部
界山四電報(四四四) 函 濱 部
元山代理店 山口 同 濱 部
作 大門口電話(二六八二) 函 濱 部
京阪大店 河村 運 送 店
月 月 日 日 出 前 八 時
帆